HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター 第40号
Issue Date	2022-01-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/85031
Type	bulletin
File Information	newsletter_40.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第40号　2022年 1月

北海道大学 Hokkaido University
Archaeological Research Center News Letter

埋蔵文化財調査センター ニュースレター

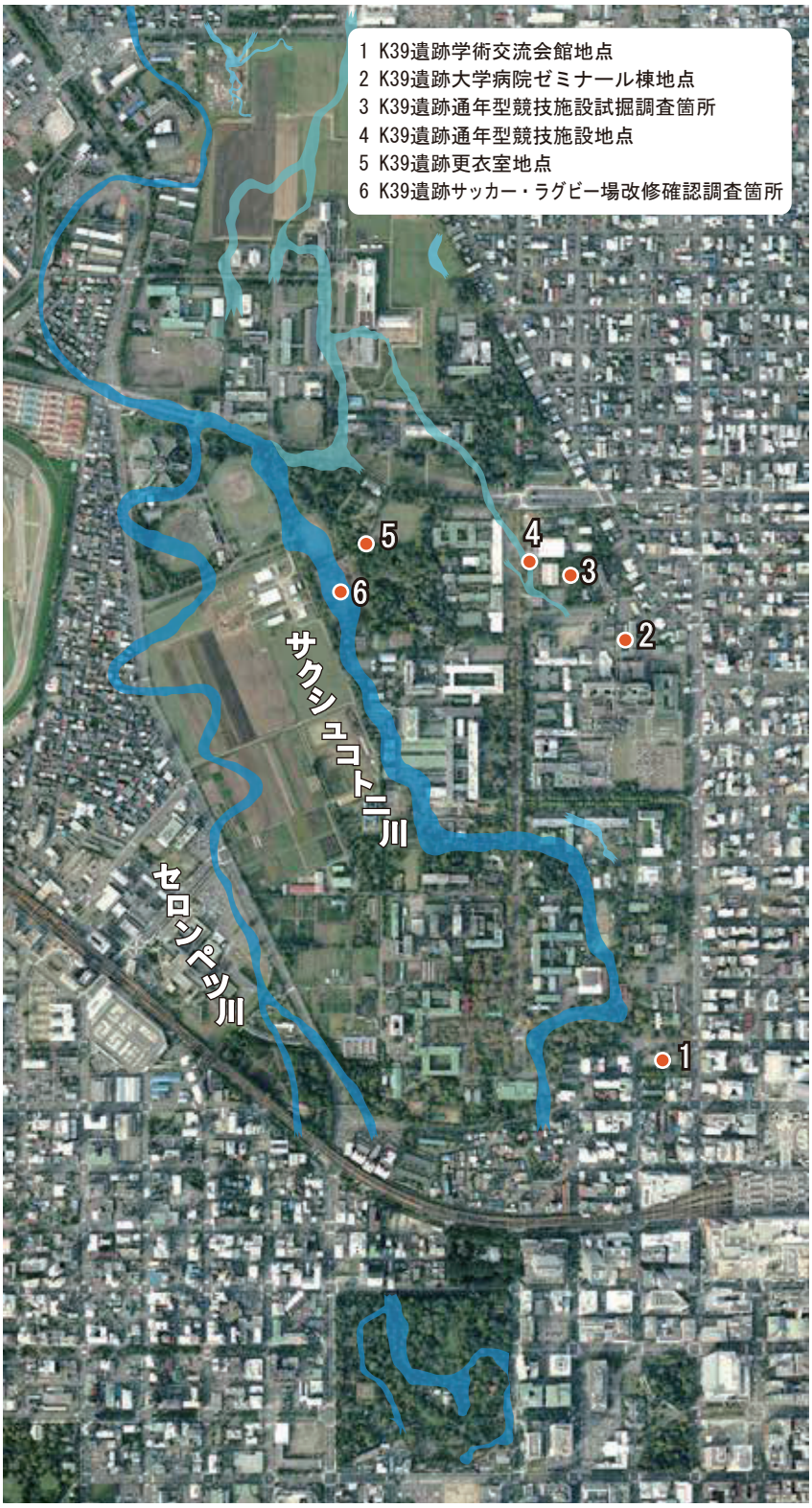
特集　大学病院食器類の世界

北海道大学構内のいくつかの地点での調査からは、近現代の陶器製の食器類が発見されています。これらには「北海道帝國大學医學部・附属醫院」や「北大病院」の銘がついているものがあり、それらは大学病院で使用されていた食器類と考えられます。発見された食器類には、小椀や皿、小鉢、湯呑、蓋、大椀、椀蓋などの種類が認められ、それぞれの意匠や形態には規格性が見出せます。底面には「日本硬陶」や「MINO」の銘があり、それぞれ日本硬質陶器株式会社や美濃窯業株式会社の製造によるものであることがわかります。これらは、戦前から戦後の一時期にかけて大学病院から大量発注・納品されたものと考えられ、当時の大学機関で使用されていた日常用品の流通史を紐解いていくうえで貴重な資料となります。

▲ 大学病院ゼミナール棟地点（2頁No.1）から発見された食器

外側面に青色で「北海道帝國大學医學部・附属醫院」、底面に緑色で「日本硬陶」の銘があります。口縁部外面には太圏線と細圏線が組み合わさった二重圏線が、高台脇にも圏線が認められます。

病院食器類が出土した地点・箇所



▲ 大学病院ゼミナール棟地点での食器類の発見状況

深さ約1.2m、上場の幅が約2.0m、下場の幅が約0.8mの投棄坑からまとまって発見されました。小椀・皿・蓋・湯呑などが一括性の高い状態で発見され、昭和14・15年のプラスチック製医薬品広告付きカレンダーも一緒に発見されたことから、これらはそれ以降に投棄されたものとみられます。

▲ 通年型競技施設地点での食器類の発見状況

表土から外側面に青色で「北海道帝國大學医學部・附属醫院」の銘をもつ小鉢が発見されています。一緒に皿・蓋・湯呑などが発見されています。

▲ サッカー・ラグビー場改修確認調査箇所での食器類の発見状況

令和元年にサッカー・ラグビー場の南側および西側で改修工事が計画された際の確認調査で発見されました。地表下約0.4mまでの表土から、皿・湯呑・椀蓋・大椀などがまとまって発見されています。

▼ 北海道大学構内において病院食器類が出土した地点・箇所

番号	地点・工事箇所	調査年次	種類	報告書
1	K39遺跡学術交流会館地点（本発掘調査）	昭和59年	大椀(どんぶり椀)	『北大構内の遺跡 ［5］』
2	K39遺跡大学病院ゼミナール棟地点（本発掘調査）	平成25年	小椀・皿・小鉢・湯呑・蓋	『北大構内の遺跡 ⅩⅩⅠ』
3	K39遺跡通年型競技施設試掘調査箇所	平成20年	小椀・皿・小鉢・湯呑・蓋	『北大構内の遺跡 ⅩⅦ』
4	K39遺跡通年型競技施設地点（本発掘調査）	平成21年	小鉢・湯呑・蓋	『北大構内の遺跡 ⅩⅧ』
5	K39遺跡更衣室地点（本発掘調査）	平成20年	小椀・大椀(どんぶり椀)・皿	『北大構内の遺跡 ⅩⅦ』
6	K39遺跡サッカー・ラグビー場改修確認調査箇所	令和元年	小椀・大椀(どんぶり椀)・皿・小鉢・湯呑・蓋・椀蓋・痰壷	『北大構内の遺跡 ⅩⅩⅦ』

出土した食器類

大学病院ゼミナール棟地点（2頁No.2）の資料では小椀や皿が主体を占め、銘には「北海道帝國大學医學部・附属醫院」と日本硬質陶器株式会社（現ニッコー）が製造元であることを示す「日本硬陶」のみが認められます（1～3・5）。一方、サッカー・ラグビー場改修確認調査箇所（2頁No.6）では「北海道帝國大學医學部・附属醫院」と「日本硬陶」の銘が僅かに認められますが（7）、主体は「北大病院」と美濃窯業株式会社が製造元であることを示す「MINO」の銘で（6・8～10）、小椀の発見は僅かで、大椀・皿・湯呑・蓋で占められています。大学病院ゼミナール棟地点は戦前に、サッカー・ラグビー場改修確認調査箇所は戦後に利用されていたものが中心だったのでしょう。学術交流会館地点（2頁No.1）と更衣室地点（2頁No.5）では口縁部外面に緑色の二重圏線をもつ食器類が発見されており、「統制食器」として大学病院で使用されていた可能性があることから、ここで掲載しました。

全国の大学キャンパスで確認されている大学病院食器類

大学病院銘の入った陶器製食器は、これまで全国のいくつかの大学キャンパスから発見されてきています。北海道大学構内で発見されているものと同様に、美濃窯業株式会社や日本硬質陶器株式会社の裏印が確認されており、同じような製造元であったことがわかります。大学ごとの銘がつけられていますが、形態や意匠は共通している点が多く、規格生産されていたことがうかがえます。

◀大学病院食器類がキャンパス内で発見された大学

1:京都大学から発見された皿。見込みに「醫院」、底面に「大學」の銘が認められる（『京都大学構内遺跡調査研究年報 2011・2012 年度』京都大学文化財総合研究センター）、2:徳島大学から発見された小椀。外側面に「大學」、底面に「MINO」の銘が認められる（『徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 1』）、3:広島大学から発見された大椀（どんぶり椀）。外側面に「広大病院」、底面に「MINO」の銘が認められる（石丸恵理子・大近美穂・西口裕子「広島大学霞キャンパス出土の『広大病院』食器」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要 6』）、4:金沢大学から発見された小椀と蓋。「金澤病院賄」の銘が認められる（『金沢大学文化財研究 2』金沢大学埋蔵文化財調査センター）。

陶器製食器からメラミン樹脂製食器へ

1930年代にスイスのCIBA社によって開発されたメラミン樹脂は、その後、食器の素材として脚光を浴び、世界中に広まっていきました。第二次世界大戦中にアメリカ海軍で食器に採用されたことも、注目を集めた要因の一つだったようです。メラミン樹脂を素材とした食器は、軽量でありながら破損しにくく、また耐水性や耐摩耗性が強いため、大量調理と配膳を繰り返し、衛生的で取り扱いのしやすさが求められる病院給食や学校給食では、より好まれるようになりました。成形がしやすく、さまざまな形を作り出していくことが容易なことも、メラミン樹脂が食器の素材としてひろく採用されるようになった要因だったようです。日本では1950年代頃から食器に使用され始め、北海道大学病院を含め日本各地の大学病院で入院患者の食事の際の食器として利用されるようになりました。こうして陶器製の食器はメラミン樹脂製の食器に置き換わっていくこととなったのです。

◀『北海道大学病院のおいしい健康ごはん』（北海道新聞社刊、2015年）より

第12回企画展「磨製石斧：かたちと役割」開催報告

令和 3 年 7 月 1 日から 12 月 28 日までの期間、当センターの展示室で第 12 回企画展「磨製石斧：かたちと役割」を開催しました。この企画展では、これまで大学構内の遺跡から発見されてきた磨製石斧が一同に展示されました。木材の伐採や加工に必要な磨製石斧がどのようなものであるのかについて、そのかたちや役割の変遷を示す企画展示となりました。

▲企画展示『磨製石斧：かたちと役割』（全景）

▲出土遺物展示の様子

編　集　後　記

今号で特集した大学病院食器類は、大学史の一側面に新たな光をあてる資料となるでしょう。埋蔵文化財にかかわる調査では、こうした近現代の資料が発見されることにもなります。（高倉）

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター　第40号
令和4(2022)年1月31日発行

発行　：北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811　札幌市北区北11条西7丁目
電話　：011-706-2671　FAX：011-706-2094
e-mail：hokudaimaibun@gmail.com
URL　：http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/
印刷　：柏楊印刷株式会社